

学校と
家庭と
地域を



つなぐ



三島市立山田中学校

台風一過、秋色ますます増してきました。山田川沿いの黄金色の田に、彼岸花の赤がよく映えていました。彩り豊かな季節になりました。この数日は、お彼岸の中日を過ぎ、「暑さ寒さも彼岸まで」というように、爽やかな日が続いています。過ごしやすくなりますので、生徒にとって、実りの多い秋になってくれればと願います。

1 青峰祭・文化の部

文化祭



さて、生徒は、28日に予定されている青峰祭・文化の部に向けて、合唱の練習に一生懸命に取り組んでいます。体育館や教室棟から聞こえてくる歌声は、日に日に熱が入ってきます。文化の部の発表を心待ちにしています。お手伝いをしてくださるPTAの方々に感謝します。

また、当日は生涯学習センター市民ギャラリーで9月29日まで行われている「ふくろう先生と子どもたち展」を観て、帰るようになります。本校に頂くことになっている作品も展示されています。こちらの方も楽しみです。

2 全国学力・学力状況調査

本年度から再び全国の小学6年生と中学3年生を対象に、文部科学省が全国学力・学習状況調査を実施することになりました。調査はすでに4月24日に実施され、本校3年生も受けました。

先日、生徒一人一人に文部科学省から交付された個人票を配布いたしました。

本校の平均正答率は、国語A、国語B、数学A、数学Bのいずれも県や全国と比較して、極めて優れているという結果でした。引き続き、生徒の実態に応じて良い点を伸ばし、課題を改善するような授業の工夫を心がけたいと思います。

今回の調査結果は、学力の特定部分を示すものであり、同時に調査しました生活の諸側面などとの相関関係の分析も必要です。今後、そのような分析を進め、本校の教育活動に活かし、子どもたちの学習意欲の向上につなげていきたいと考えています。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



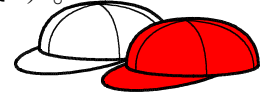
3 発達障害(1)



近年、子どもたちのコミュニケーションや対人関係でのトラブルが少なくありません。その中には、発達障害やその境界のお子さんで、周囲の理解不足からくるものも多々あります。そこで、発達障害全般の理解を目的として、連載をしていくこととしました。

内容は、政府広報による資料を引用させていただきます。

発達障害のある子どもは、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。発達障害の人たちが個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子どものうちからの「気づき」と「適切なサポート」、そして、発達障害に対する私たち一人一人の理解が必要です。



○ 発達障害って、なんだろう？ 理解する①

発達障害は、脳機能の発達が関係する生まれつきの障害です。発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものだと理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

今後、発達障害のある人を理解するために、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など、主な発達障害の特徴を紹介します。なお、発達障害は、複数の障害が重なって現われることもありますし、障害の程度や年齢（発達段階）、生活環境などによっても症状は違ってきます。発達障害は多様であることをご理解ください。

(次号に続く)



それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

